

『安政末年伊勢参宮道中記』

鎌田道隆

原題は「伊勢参宮道中記」であるが、同名の記録が少なくないことから、翻刻にあたり「安政末年伊勢参宮道中記」の名を付した。本書は二〇〇七年四月に東京の古書店から、奈良大学史学科の教材標本として購入したものの一書である。タテ一二センチ、ヨコ一六・五センチ、折紙中綴じ装、全七八丁のうち墨付七五丁。表紙に墨字跡が見えるが、手擦れのため赤外線撮影によっても判読できなかつた。小冊子にしては不似合いな大字と見えた。

安政六年十一月十五日に、陸奥国田村郡北宇津志村（現在は福島県田村市船引町北移）を出発して伊勢参宮へと向い、参宮後は四国の金毘羅から室津をまわって、翌安政七

年正月末日に帰宅した折の旅日記である。二カ月半におよぶ大旅行で、北宇津志村の七人の男達が旅行している。本文末の記載によると、七人のなかの一人寅之介（虎之介）十八歳の時の伊勢参宮であつたが、本書は万延二年に書写した冊子であるという。

たしかに本文中に「萬延元年正月朔日」の記載となつているところや、多くの朱筆の書き入れがあるなど、書写に際して加筆されたことがうかがえる。朱書のうち文字はすべて「」に入れて翻刻したが、宿場名などに○□○□

●の朱筆符牒が付されたものは割愛した。  
本文中の用字・用語についても記しておきたい。翻刻し

た本書は、万延二年に書写されたものであるが、筆者は文字を書くことにはかなり慣れている。筆づかいは滑らかであるが、用字には相当な癖という個性が見られる。固有名詞であるのに、多武峰を東の峯、当麻寺を對馬寺などと当て字を書いている場合が少なくはない。これらの当て字は、地名や寺名などの正しい表記を知らないから、分からないから聞いた音声に当て字をしたというよりも、当て字を楽しんでいるのではないとも見える。また、かな書きした地名を次のところでは漢字表記にしている例などは、読みかな表記と漢字表記を両方書きあらわすことで、のちに旅する者への情報提供にもなっているとも言える。

旅日記の筆者および同行者が全員東北地方の生活者であったことによるのか、東北弁と考えられる文章表記が多い。たとえば薩摩を「さづま」、縁厚さを「ふぢあづさ」、焼け跡を「やげ跡」、龍田を「たづだ」などなど、濁点が数多く付されている。濁点を付しがちな書き手の癖かとも見えるところもないわけではないが、原書のとおりにすべての濁点は付したまま翻刻したので、読者の判断に委ねたい。また気になった用字としては、三階とか五階とかを、「三かへ」「五かへ」のように、「い」の字を「へ」と仮名書き

している例や、塔の字を、「党」「堂」、鐘を「兼」などの字に当てている場合が少なくなかった。さらに、これは筆者の全くの誤記とすべきであろうが、御庭を「御底」と記したり、方言の表記かと思われるが表具を「兵庫」と記した箇所もある。

このような個性をもった旅日記であるが、本書の記述内容は実に豊かで、旅の行程や各地における宿泊に関する情報、参詣、見物、買い物などの詳細な記述は、近世における庶民の旅と学習の記録として、きわめて貴重な文献であるとの評価を与えることができよう。

本書を活用して、近世庶民の旅と観光に関する研究が進めることを期待したい。

伊勢參宮道中記

安政六年<sup>未</sup>十一月十五日罷立

一北移より

一三春<sup>江</sup>四り半 十五日晩泊り、伊勢屋作介殿、旅籠百七

拾文

一赤沼<sup>江</sup>三り

一守山<sup>江</sup> 壱り半 此所二万石御城あり、松平大学頭殿、田

村郡、江戸ヨリ五拾六り、大元明王様有、此間川有、橋

錢七文

一須加川へ壱り半

一矢吹<sup>(矢より本吹)</sup>へ二り半 十六日晩泊り、旅籠貳百參拾文、ひる出

る、御本陣<sup>(本陣)</sup>加納屋住之江永介殿

一白川へ四り 此処十方石御城有、白河郡、阿部播磨守殿、

江戸ヨリ四拾八り

一白坂<sup>江</sup> 壱り半 此所堺明神様あり

一芦野へ三り

一越ほりへ三り 此間ふじ見坂あり、十七日晩此所泊り、

はたご貳百文、ひる出る、御本陣<sup>(本陣)</sup>石川屋源藏殿

一なべ掛<sup>江</sup> 六丁

一大田原<sup>江</sup> 三り半 此所一万千四百石之御城あり、大田原

飛驒守殿、那須郡、江戸より三十九り

一作山<sup>江</sup> 壱り半

一喜連川へ三り 此所喜連川左馬頭殿御城有、那須郡、無

高、江戸より三十六り

一喜連川より氏家二り

一うぢ家よりあぐ津二十九丁 十八日晩泊、槌屋幸兵衛殿、

はたご貳百三拾文

一悪津よりくぼ田迄拾三りの間、川舟二下り申候、但し船

錢貳百八文、土屋幸兵衛方<sup>江</sup>相渡し申候、十九日朝五ツ

時のり出し、夕七ツ時久保田<sup>江</sup>あかり、十九日晩此所泊、

奥州屋清次郎殿、旅籠貳百七拾二文

一久保田より諸河三り

一諸河よりさかへ二り半

一堺よりせき宿半り 此所川有、舟錢三拾貳文、次二河有、

船錢拾六文、此所御番所有、此所五万八千石御城あり、

久世大和守殿、葛飾郡、江戸より十三り、此処木村清兵

衛殿二付、此所より江戸迄舟路拾三り、舟錢貳百五拾文

二而 舟役そく仕候、木村清兵衛殿<sup>江</sup>相納申候、此所二而

夕食たべ申候、代百文、外二夜具代五拾文、酒出五拾文

一関宿より新川十一り 此所二明六ツ時付申候、朝食たべ

申候、膳吉人前四拾八文つ、食宅せん拾貳文づ、

一新川（新川）より小わみ町二り 此所迄舟二のり申候、小わみ町

へ朝五ツ時罷付申候、十一月廿一日

一 小わみ町より馬喰町八丁 此所（馬喰町）苧豆屋茂左衛門殿昼四ツ

時罷付申候、此日案内取、江戸見物仕候、安内銭貳百五

拾文、何人二（何人）も同じ、神田明神様参詣仕候、次ニ湯島

天神様、次ニ忍はず弁財天、次ニ東永山参詣仕候、本堂

ハ廿七間四面、本尊ハ薬師如来様、前のろふが二諸大名

方御きしんの燈籠あり、次ニ東門せき、次ニ朝草観世お

ん参詣仕候、當ハ拾八間四面、奥の院十二面観世音、朝

草前二（草前）而（而）えを買申候、次ニえごう寺、此所ニ常念仏有、

次ニ両国橋渡り、是より苧豆屋へかへり、此晚泊、廿二

日猿若町芝居見物仕候、芝居町山本屋と申茶屋二付、巷

人前二付六匁七歩、茶屋より菓子べんとふ出る、此晚新

吉原見物仕候、安内銭百五拾文、十一月廿三日朝、苧豆

屋茂左衛門殿罷立、旅籠二泊り分六百拾六文宛、常葉橋

より御門二入、越前福井様御屋敷二丁四面、次ニ綿ぐら

御門、次ニ桜田御門、相馬様御屋しき、次ニ寅の御門、

次ニ三春様御屋しき拝見仕候、次ニ愛宕山参詣仕候、次

ニ芝條宗寺参詣仕候、次ニ高輪泉岳寺、脇ニ忠臣蔵四拾

七人の石どふ有、脇ニ判官様石どふあり

一 馬喰町より品川二り

一品川より河崎二里半 此所六郷の渡し、舟銭拾五文、廿

三日晚泊り、相模屋重兵衛殿、はたご貳百七拾貳文

一 川崎より神奈川半道 此所より横濱江（江）沓り、舟二のり舟

銭五拾文、見物仕候、唐人、からの犬、らしや面、次ニ

吉原見物仕候、鳥屋、けだ物や、熊、未、きんけいてふ、

ぶちおしかも、わし、海鷲、から鼠見物仕候、此代拾六

文、から舟見物仕候

一 横はまより程か谷沓り半

一 程か屋より戸塚二里半

一 戸づかより鎌倉二り半 廿四日晚此所泊、与本五郎兵衛

殿、はたご貳百文、鎌倉圓覚寺門前ニ白鷺の池左右二有、

次ニ磐屋弁才天、是ハ伝ぎやう大師の御作、岩屋観世お

ん百たへ有、出世天満宮、是ハ上長の作、園学寺御本尊

しゃか如来、前ニからん門有、両脇ニ一切経堂有、次ニ

つりかね、是ハ龍合より渡りたる金なり、指渡し五尺八

寸、長サ沓文貳尺、名金成、えん覚寺御しいん六百五拾

石ニ金百両成、次ニ豊川稻荷様の内ニ弁才天、弘法大師

御作、此外色々神社仏格、六文に（六文）開帳仕候、次ニあま

寺有、御しいん五百石成、次二健長寺名所、頼朝公当土のまきかり、陣かね、陣大鼓有、指渡し五尺八寸、六文二而開帳仕候、次二鶴ヶ岡八幡様参詣仕候、此所二見こし数々あり、宝物者色々あり

一実朝公御所持化石

一頼朝公御狩矢

一時頼朝臣硯箱

一頼朝公舞楽面

一御所王良丸大太刀、長サ五尺八寸、六文二而開帳仕候、

前二鶴龜石あり、八幡宮下二一切経堂有、是ヲまわすに

三文づ、下二男石女石有、八幡様御しいん三千五百石

成、此外大社数々あり、八幡様脇二源頼朝城跡あり

一鎌倉より江之嶋二り かまぐらより半道行而、此所大仏

様参詣仕候、六文に而御原こもり、かんせ音様参詣仕候、

大仏様御たけ五丈、下のまわり拾六間式尺、次二はせ観

音御たけ三丈三寸なり

一はせより江の嶋一り半 此間に川有、橋銭四文宛、弁財

天様参詣仕候、下の宮弁才天、上の宮弁才天、奥の院ハ

御室弁才天、右の入大日如来、左の入も大日如来様、お

むろに入と脇二色々仏格有、山役銭拾式文つ、おむろ

深サ式文卷間成、此所渡辺四郎兵衛殿二而六拾六文、ひるたべ申候

一江の嶋より藤沢壱り半

(北の東津)

此間川有、橋銭五文つ、廿五

日晚泊、常葉屋佐介殿、はたご式百式拾四文、此所湯行

寺参詣仕候

一藤沢より田村三り

津波宿より、舟中舟行而四ツ船と申所より大山不動様道二入  
此間川有、舟銭式拾四文宛

一田村よりいせ原壱り

一いせ原より子安壱り 此所子安地藏様、子安観世音様参詣仕候

詣仕候

一子安より大山壱り半

一大山町口より不動様迄壱り半 不動様参詣仕候、是より

左之方別れ、みのけ道有、上り八丁下り廿八丁なり、廿

六日晚泊、釜鳴屋留八殿、木銭八拾文、米百文二六合成

一みのけより西祥寺六り 此間川有、橋銭式拾四文、大門

より式拾八丁上り、道了権限様参詣仕候、前二拾式貫目

の札あり

(此所より金田の守山)

一西祥寺より津か原壱り、此間川有、橋銭五文つ、廿七

日晚泊、小間物屋孫兵衛殿、旅籠式百式拾四文

一津か原より小田原二り 此所十一万三千百廿石御城有、

大久保加賀守殿、足柄下郡、江戸より二十り

一 小田原〔正より東海也〕より箱根四り八丁 此所箱根権現様あり、天下御

関所あり、水うみあり

一 はこねより三嶋三り卅丁 此所三嶋大明神様有、大社成、

廿八日晚泊り かし屋重左衛門殿、はたこ式百五拾文、

ひる出る

一 三嶋より沼津壱り半 此所五万石之御城あり、水野出羽

守殿、駿東郡、江戸ヨリ廿九り半

一 沼津より原壱り半

一 はらより吉原三り六丁

一 吉原より蒲原三り 此間富士川有、舟錢貳拾四文

一 かん原より油井壱り 廿九日夜泊、旅籠貳百五拾文、記

之国屋四郎左衛門殿、ひる出る

一 由井より沖津二り十二丁

一 おき津より江尻壱り三丁

一 ち〔ちより久能山出帆也〕ちりより久能山二り半 壱り半舟二のり、舟錢三拾貳

文、此所名主彦太夫殿二而百文、ひるをたべ申候、案内

取御参詣仕候、安内錢貳百文、何人二而もおなじ、御門

を入御関所あり、乗切て相納申候、次二御玉屋参詣仕候、

下二五かへ堂有、御石之間参詣仕に貳百文、何人二而も

おなじ、御石之間に金の燈籠四ツあり、金の天がへ有、

仲ハ皆金銀作りなり、奥の院東照大権現様なり、前二め

つきの燈ろふ数々有、大とふろふ四ツ有、右之脇二かね

どふあり、下二神社数々あり、東照大権現様御しいん三

千石なり、東照権現様迄上り拾八丁

一 久能山より府中三り 此所右之方〔正より東海也〕へ御城あり、はん城な

り、江戸より四拾四り、此所ふじ千見様参詣仕候、前二

日本一神こでん有、神社数々有申候、御本社参詣仕候、

諸大名方御きしんのゑ馬数々有申候、案内錢拾貳文宛二

御座候、晦日夜泊、吉野屋利介殿、はたこ式百文

一 府中よりまりこ壱り半 此間安部川有、舟役錢三拾六文、

切て出る、是ハ舟越に渡へし、此間うづのや峠

一 まりこより岡部二り九丁

一 おがべより藤枝壱り廿九丁

一 ふち枝より嶋田二り八丁

一 嶋多より金谷壱り 此間大井川有、河役錢百六拾文、あ

ぶら紙切て出ル、川越二渡べし

一 かなやより日坂壱り廿四丁 此間小夜の中山あめで餅名

物あり、此処によなき石といふあり、十二月朔日夜、此

所泊り、山田屋重右衛門殿、木錢七拾貳文、米壱升百五

十文

一 日坂より掛河巻り卅丁

一 かげ川（たけがわ）より森町三三（もりまち） 此所五万三千七百御城あり、太田

撰津守殿、左野郡、江戸より五十五リヨ

一 掛川（かけがわ）より森町三三（もりまち） 此間川有、橋錢四文、六文、三文、

但し三ヶ所なり

一 守まぢよりみ倉二リ半

一 みくらより戌亥三三（いぬい）半 二日晩泊、なべ屋六右衛門殿、

木錢七拾弍文、百文二六合成

一 いぬいより坂下十四丁

一 坂下より秋葉山巻り 秋葉山御前立正觀世音、脇二萬燈

籠有、下二紅當有、此脇二金仏あり、御燈籠数しれず

一 秋葉山より戸倉巻り

一 とくらより才川廿五丁 此間天龍川有、舟錢拾弍文

一 さい川（さいがわ）より石打一リ半 此間川有、橋錢弍文宛

一 石内（いしうち）より熊村二リ 此間川有、橋錢弍文宛

一 くま村（くまむら）より大平巻り半 此間橋錢弍文なり、三日晩泊り、

山本屋九兵衛殿、はたご弍百文、ひる出る

一 大ひら（おほひら）よりす山一リ半

一 す山（すやま）より大野一リ半

一 大野（おほの）より鳳来寺迄三十六丁登り、御山中段二茶屋有、其

前二行者もとしといふ所あり、此所より二丁程行而、東

照大権現様あり、御玉屋参詣仕候、山役錢四文なり、下

二峯薬師様参詣仕、脇二三かへ堂有、其外色々参詣仕候、

下二金仏あり、薬師様御しゆいん千五百石成

一 薬師様より門谷（かどや）江九丁

一 かどや（かどや）より新城三三（しんじょう） 此間川有、舟錢五文宛

一 しん城（しんじょう）より柿の木村と申所二巻り 極月四日晩泊、山本

屋、木錢七拾弍文、米巻升百三拾文、此所迄五十丁巻り

成

一 柿木（かきぎ）より豊川弍リ 此所正一位稻荷大明神様参詣仕候、

奥の院鳥居数しれ不申候、外二大社数々有申候、此処拾

三かへの石燈籠有、前二からん門有、此所九尺指渡し太

鼓有、脇二金とふあり

一 豊川（とよがわ）より御油一リ廿四丁

一 御油（ごあぶら）より赤坂十六丁

一 赤坂（あかざか）より藤川弍リ九丁

一 ふぢ川（ふぢがわ）より岡崎一リ三十丁 此所五万石之御城あり、本

多中務大輔殿、額田郡、江戸ヨリ七十七リ、此所弍百八

間の橋有、大じしんに（おほししん）而やぶれ、舟越なり、舟錢拾三文

なり

一 岡崎より大濱二リ 五日晩泊り、木銭七拾弐文、米壹升  
百三拾六文なり、あふら屋久右衛門殿

一 大濱よりちりふ一リ三十丁

一 血龍よりなるみ二リ三十丁 此所しほり名物あり

一 なるみより宮江 壹リ半十二丁 此所あつた大明神様、名

大社成

一 みやより名古屋（名前は、尾張の地名也） 町つゞき成、極月六日晩泊り、名

古屋本町通七丁目浪花講近江 江屋清八殿、旅籠式百弐拾四

文なり、此所六十一万九千五百石御城有、尾張中納言様、

愛知郡、江戸より八十六リ半、日本一の名城なり

一 名古屋より神目寺二リ 此所ニ日本三社觀世音様有

一 神目寺より津島三リ 此処牛頭天王様あり、此所よりや

く神よけ守出る。

一 津嶋より佐屋廿九丁 上十五日ハ津嶋より舟出る成、此

所茶屋に付、松屋清六殿、世話料とて、茶代壹人分三拾

弐文宛

一 左屋より桑名迄三リ 此間舟路也、壹舟代七百文、壹人

前百弐拾四文宛 外二舟役なし、桑名（見より津島迄）へ暮六ツ時罷付申

候、七日晩泊り、若狭屋仁介殿、旅籠錢弐百拾六文なり、

此所拾壹万石之御城あり、松平越中守殿、桑名郡、江戸

ヨリ九十四リヨ

一 桑名より四日市三リ八丁

一 四日市より追分（此所より伊勢守也） 壹リ

一 おいわけ（此所より伊勢守也）より神戸一リ廿八丁 此所一万五千石之御城あ

り、本多伊子守殿、河曲郡、江戸より百リ半

一 神戸より白子（此所白子山子安觀世音様有、大社

なり、前二不断桜あり、名木也、年中花さへているなり

一 白子より上野（此所上野

一 上野より津二リ 八日晩泊り、八百屋利介殿、木銭六拾

四文、米壹升百三拾八文、三十二万三千九百五拾石御城

あり、藤堂和泉守殿、安濃郡、江戸ヨリ百二リ半

一 津より雲津二リ 此処はし鏡式文なり

一 くも津より月本廿五丁

一 月本より六軒半リ

一 六けんより松坂一リ

一 松坂より櫛田二リ 此所川有、橋錢弐文、くら田川より

五丁行而、左之方本家稲木煙草入有、此家之脇（此所

脇二神社有、前二石の玉垣有、此家が本家なり、稲木川

有、橋錢弐文

一 くし田より小畑二リ

一 おばたより山田一リ 此間宮川有、舟錢いらす、是より五十丁巻りなり

一 山田より内宮一リ 極月九日暮六ツ時、子富右膳太夫様罷付申候、御供代、落し物共ニ、一金百疋指上申候、極

月十日朝五ツ時、天照皇大神宮様御参詣仕候、次ニ朝熊山江登り、こぐうぞふ様参詣仕候、是より奥の院三丁、

延命地藏様参詣仕候、御酒肴べんとうニ而案内仕すられ、太夫様の茶屋により、茶代老人前ニ付拾式文宛、あさま

山江本家万金丹有、此所ニ而買べし、極月十一日朝、内宮様増社八十増社有、参詣仕候、右膳太夫様江帰り、山

役錢三拾六文御祓請申候、京都扇屋手代伊介様と申者ニ御頼ミ申候、但し賃錢之儀者、百目ニ付拾八文の割に、

京都江相送り申候、十一日朝子富右膳太夫様罷立申候 一内宮より山田巻り 外宮大神宮様参詣仕候、増社四十増

社有、酒肴并当ニ而案内ニ宮川迄送られ、茶屋ニ廻り、茶代拾式文宛、百文案内ニくれ、此所宮川有、舟錢入不

申候 一山田より田丸巻り半 此所記州様御城あり

一 田まるより原大辻巻り半 十一日晚泊り、木錢四拾八文、米巻升百三拾文、江戸屋喜兵衛殿

一 原より大風巻り

一 大風よりとち原巻り半

一 とち原よりあほ一リ半

一 あをよりみせ巻り半 一 此間川有、舟錢六文宛

一 みせより野尻巻り 此処瀧か原大神宮様有、参詣仕候

一 野尻よりあそ巻り

一 あそよりこま二リ 十二日晚此処泊り、旅籠百八拾四文、

藤原屋長兵衛殿、ひる出る

一 小まより長嶋江三リ 此間川有、舟錢八文宛、是より八

合升、五拾丁一リ也

一 長嶋より三浦二リ 此間峠式ツあり

一 三浦より馬せ巻り

一 馬せより香の本二リ

一 かうの本よりおはせ二リ半 此間孫女峠有、上下二リ、

十三日晚泊、油屋喜兵衛殿、旅籠式百文、ひる出る

一 おはせより御喜三リ 此間八鬼山峠あり、上り七拾丁の内、五拾丁登りて茶屋有、脇三三三荒神様あり、弘法

大師御作 一 みきよりそね巻り半 此間とふけ二ツあり

一 そねよりにき嶋巻り半 此間そね次郎そね太郎とふけあ

り

一にき嶋より仇鹿沓り 此間大かめ坂あり、極月十四日晚泊り、はたご式百文、ひる出る、警本屋嘉藤治殿

一あた鹿より木の本式り 此間少し橋有、はし鏡三文、とふけ二ツあり

一木の本よりあだわ三り、

一仇和より新宮二り 此処乙なし川有、御番所あり、舟鏡式拾五文宛、番所相納、切て出る、是ハ舟越に渡すへし、

新宮様宿坊常住院様へ参り、山役鏡、御札料、御剃代迄に百三拾三文也、御酒肴吸物にて、御地走ニ相成申候、

外二鏡不申入候、次ニ熊野大神宮様御参詣仕候、十二社大権現様あり、神社色々参詣仕候、屋ねわ皆ひわだふき也、此処三万七十石御城あり、水野土佐守殿、ムロ郡、

江戸ヨリ百八拾六り

一新宮より宮さき沓り

一みや崎よりうぐい半り 此間那知くるといふ小石あり

一うぐへよりはま宮一り半 十五日晩泊り、角屋仁兵衛殿、はたご式百文、ひる出る、此処ふだらぐさん参詣仕候

一濱の宮より那知山沓り 一の鳥居より大門迄六丁、大門より御瀧迄六丁、御瀧参詣仕候、次ニ宿坊宝蔵院様江参

り、山役鏡、御札料、御剃代共ニ、百五拾七文、神酒、

御吸物ニ御地走ニ相成申候、宿坊より案内出る、熊野様懸越なり、如いりん觀世音様参詣仕候、日本第一番の札所成、次ニ熊野様拾二社権現参詣仕候

一那知山よりくす久保三り半 此間大雲取峠あり、上下三り半なり

一久すくほより小口半り 十六日晚泊り、旅籠式百文、ひる出る、何屋誰殿、酒屋の上なる家此所少出る、川有、舟鏡三文

一小口より受川三り 此間小雲取峠あり、上下三里成一請川より本宮半り 此所丸山東泉太夫様江附、御番代三拾式文、御酒神山役鏡式拾四文、外ニ茶代三拾式文宛、

是より案内出る、熊野大神宮様御参詣仕候、脇二拾式社権現様有、屋ねわひわだ吹成、東泉太夫様江帰り、百式拾四文ニて御え受申候

一本宮より湯の峯二十五丁 此所薬師如来様あり、参詣仕候、此処日本一の名湯有、六文ニ而湯に入申候

一湯の峯より本宮帰り

一ほん宮よりやぎう沓り、是より六十六丁沓り、十七日晚泊り、木鏡六拾四文、米沓升百七拾五文、本升成、梅の

木茶屋常之介殿

一 柳生より柳本四り 此間果なし峠有、上下四り、此所西川あり、橋錢三文宛

一 柳本よりかすさぎ巻り

一 かす崎よりやぐら半り

一 やぐらより寒の川三り半 此間やぐら峠、上下三り半、

此処泊り、十八日晚、木錢六拾四文、米巻升式百拾文、

三浦屋源藏殿

一 菅野河より大まだ四り 此間おぼこ峠、上下四りなり

一 おふまだより上西二り 是所五拾丁巻り

一 上西より大たぎ巻り 此より高野案内出る、錢いらす

一 おふ瀧より高野巻り 本宮より高野迄道のり十八り、極

月十九日夕くれ時罷付申候、藤の坊成福院様落し物、一

金巻分六人二而 指上申候、巻人前式百七拾七文宛、此晚

泊り、此所より九重乃守出るなり、其外御守数々出申候、

常福院より奥の院迄廿一丁、廿日朝、御参詣仕候、じづ

屋より案内出る、此間諸大名石堂数々あり、弘法大師つ

めかぎの地藏様有、次ニ蛇柳、次ニ明地日向守様石どふ、

ほんじ横になるなり、次ニ三春様石どふ、次ニ寒掛様、

あせかきの地藏様有、脇ニ姿みの井戸あり、加賀様石堂

琉球より渡りたる石也、次ニ無明の橋、弘法大師天ぢぐ

よりなけたる石あり、腰掛石あり、次ニ禁てふ様石どふ

あり、次ニ弘法大師様参詣仕候、前ニひんの一燈長者の

万燈有、次ニ木喰上人様参詣仕候、此所より拾式文二而

安さんの守、光明真言やぐ神よげ出るなり、水戸様石と

ふ立てもふぢかへるなり、会津様石堂なし、是より寺へ

帰り申候、案内錢いらす、常福院様昼四ツ時罷立申候

一 高野山より紙屋五十丁 此間不動坂四寸岩あり

一 かみやよりかね巻り

一 かねよりかむ路巻り

一 かむろより橋本一り 此間川有、舟錢いらす、舟祝四文

宛

一 橋本より五条二り 此間松じ峠あり、紀州大和の境也、

是より三十六丁巻り、米本升也、廿日晚泊り、帯屋治郎

兵衛殿、旅籠式百三拾文、ひる出るなり

一 五条よりうの巻り

一 う野より土田二り

一 槌田より六ツ田巻り 此間よしの川あり、はし錢六文宛

一 六ツ田より吉野巻り 吉の川より十五丁行而、大峯山一

の御前立、行堂、蔵王大権現様参詣仕候、次ニ式拾七丁

程行而、薬師如来様有、参詣仕候、次ニ義経千本桜あり、

次ニ日本一のから兼鳥居有、高サ式丈五尺、まわり壹丈

式尺成、此所より案内取見物仕候、案内銭何人<sup>二</sup>而も三

拾式文、此処からん門有、仁王様あり、次ニ御本社蔵王

大権現様、御せい壹丈六尺、奥の院ハ釈迦如来、両脇ニ

前立蔵王大権現様、奥の院に千手観世音、已六ぼさつ三

尊なり、堂の高サ拾壹丈、堂ハ十八間四面、壹丈まわり

の柱七拾式本、其内右之方の柱つ、ちの木のはしらなり、

三国一の名所也、まわり八尺、長サ三丈壹尺、前ニまぐ

引桜四本あり、次ニ拾三かへ堂のやげ跡に、あみだ如来

様有、前ニくりんのかげあり、是より三丁行て吉水院な

り、此所ニ義経陣太鼓わあり、次ニよしつね駒綱ぎ松あ

り、矢竹有、次ニ駒のあしどあり、弁慶刀ためしの石有、

釘式本打てあるなり、次ニ宝物あり、六文<sup>二</sup>而開帳仕候、

義経の太刀、弁慶の太刀あり、よろいあり、しようく

けの陣ミのあり、此外宝物色々有、御しいん式千三百六

拾石成、義経弁慶しやんの間、拝見仕候、此所<sup>二</sup>而ひる

たべ申候、ふくちや政之丞殿

一吉野より上市売リ 此間よしの川有、橋銭六文

一上市より瀧の旗売リ半 此間とふけあり

一瀧のはだより四軒茶屋売リ半 此間とふけあり

一四軒茶屋より東の峯八丁 此所鎌たり公大明神様有、参

詣仕候、七堂からん門あり、次ニ拾三かへのとうあり、

安らちといふ木あり、御しいん三千石なり、女人禁せい

の所なり、此所より東門口迄四丁下り、廿一日晚此所ニ

泊り、大黒屋九兵衛殿、はたご百八拾文、ひる出るなり

一東の峯より追分ニり 東の峯より三拾丁程下り、追分へ

近道有、此所とふるべし

一おいわけより初瀬売リ 天神様御参詣仕候、次ニはせ寺

参り、此所八番の札所なり、御本尊御情式丈六尺、十一

面観世音様、春日様、御作堂ハ九尺間ニて九間四面、前

ニろふかあり、九尺間<sup>二</sup>而七拾三間なり、次ニ三かへ堂

あり、初瀬より追分迄かへるべし

一追分より三輪十八丁 此所三輪大明神様有、参詣仕候、

御しいん三百石也、此所まわるべし

一三わより丹波市式リ

一丹波市より市の本売リ

一市の本より帯とけ売リ

一帯とけより奈良売リ 廿二日晚此所泊、網屋市兵衛殿、

廿三日朝案内取、見物仕候、案内銭何人<sup>二</sup>而も八拾八文

なり、次ニ猿沢池、絹懸柳、次二十三かねあり、此所石燈籠の數、鹿の數知れず、八幡四社明神參詣仕候。次ニ若宮八幡様參詣仕候春日様參詣仕候、次ニ若宮八幡宮様參詣仕候、此処上ニよふうぢ山あり、次ニ三笠山三ツあり、次ニ三月堂、二月堂あり、次ニ大仏様つりかね、長サ壹丈三尺四寸、指渡し九尺壹寸三分、ふぢあづさ八寸三分、兼の目方四万八千九百貫目あり、大仏堂高サ拾六丈、大仏様御たげ五丈八尺五寸、堂ハ三拾間四面、巻の柱ハ三ひろ半廻り、前ニ大ぐんの燈籠有、次ニ五かへの堂あり、前ニ花の松あり、次ニ南園堂九番の札所也、參詣仕候、是より九ツ時網屋帰り、此所罷立、大和七在所廻り

一 ならより法花寺十八丁 此所ならの京の時大りなり

一 法花寺より西大寺十一丁

一 西大寺より菅原八丁 此所菅原天神様あり

一 菅原より正大寺拾貳丁 此所御本尊ハみた薬師觀世音なり

一 正大寺より西の京六丁 此所御本尊ハ藥師如来様、六かへのとふあり

一 西の京より郡山八丁 此所拾五万千貳百八拾八石御城

有、松平時之助殿、添下郡、江戸ヨリ百十六り

一 郡山より小泉寺り 此所壹万千百石ヨ御城あり、片桐石見守殿、添下郡、江戸ヨリ百三拾三り

一 小泉より法龍寺十八丁 極月廿三日晚此所泊り、大黒屋鶴松殿、はたご貳百文、ひる出る、此所正徳大師様參詣仕候、五かへの堂有、からん門あり

一 法隆寺より龍田八丁 此所立田大明神様有、參詣仕候

一 たづより達摩寺寺り 此所達摩大師様參詣仕候、前ニ春日景向石有、壹本竹有、大師石、達摩石あり、御しいん三百石なり

一 だるま寺よりたへま寺二り半 此処本尊ハ觀世音様、中将姫おりたるまんだら有、前ニ中将姫拾七才の姿あり、前ニ御雷公の松かれである、仁王門有、中将姫髪あらいの井戸あり、あしと有、三かへ堂式ツ有、御しいん三百石なり

一 対馬寺より上の大師寺り半 此所大師様參詣仕候、御本尊御雷公、次ニからん門有、此所夫婦竹あり、此所より五拾丁寺り、此間峠有、峠より寺丁折て中将姫岩屋あり

一 上の大師より境<sup>江</sup>四り 廿四日晚泊り、旅籠百八拾四文、<sup>①</sup>きさづま屋宇右衛門殿、是より妙国寺、そてつ下の廻

り式丈八尺、枝数百貳拾七枝なり、三文にて拝見仕、御  
しいん式百石なり、是より三拾六丁沓りなり、次ニ鉄砲  
はる町、大和橋渡り、あん良町にて、何葉屋の笠松、次  
ニ住吉四社大神宮様参詣仕候、奥の院ハ天神五大太刀な  
り、此所角柱の鳥居有、次ニさづまの誕生石あり、岸の  
姫松有

一堺より大坂二り、堂どん堀芝居町、蛭子橋、大和屋弥三  
郎殿、極月廿五日昼四ツ時罷付申候、案内取大坂見物仕  
候、案内銭百六拾四文、次ニ四ツ橋、させる名物有、本  
家<sup>△</sup>播摩屋平八郎殿、次ニなんばの池参詣仕候、次ニ西  
門関、次ニ東門関参詣仕候、次ニ柳ごり名物あり、本家  
播磨屋佐介殿、是より天神橋渡り、天神様参詣仕候、次  
ニ御城見物仕候、次ニ天王寺参詣仕候、此日新町見物仕  
候、是より大和屋<sup>江</sup>帰り、かだ旅籠百三拾六文なり、此  
所より讚州丸龜迄舟路五拾三里、舟銭金貳朱ト貳百文、  
室津迄のり帰し迄、<sup>△</sup>銀沓分ト百文ニ<sup>而</sup>舟役速仕候、極  
月廿五日夜五ツ半時舟二のり、是より向まかない、此夜  
大和屋の浦ニ泊り、明六ツ時舟を出し、二り程行而新堀  
と申所ニ泊り、明七ツ時船出し、海所式晩泊り、十二月  
廿九日朝五ツ半時、丸龜大坂大和屋出店大黒屋清太夫殿

<sup>江</sup>罷付申候、此晩泊り木銭六拾五文、米沓升百四拾五文、  
老人前百三拾六文なり、是より五拾丁沓り、此所五万千  
貳百十二石御城あり、京極佐渡守、那珂郡、江戸ヨリ百  
八十五り半

一丸龜より金毘羅山三り 極月晦日金ひら山参詣仕候、御  
守代百貳拾銅、御寺より出申候、町ニ下り守箱、油紙、  
糸代百五拾六文、十二月晦日晚泊り、旅籠百八拾文、竹<sup>江</sup>  
原屋源兵衛殿  
万延元年正月朔日、金毘羅大権現様御参詣仕候

一金ひらより善通寺七十丁 此所弘法大師様御誕生之寺な  
り  
<sup>同前八拾八ノ所見也</sup>  
一善通寺より弥谷寺六十八丁 此処弘法大師様学文被成候  
寺成、御本社千手観世音様なり

一弥谷寺より多渡津沓り 此所一万石之御城あり、京極壹  
岐守、多渡郡、江戸ヨリ百八十五り半  
一多渡津より丸龜沓り 大黒屋<sup>江</sup>夕七ツ時罷帰り、正月朔  
日夜此所泊り、かだ旅籠貳百文、右者御番所切て代迄ニ  
御座候、二日朝舟二のり、是より舟まかなへ、正月三日  
九ツ時舟出し、此晩五ツ時室津へ罷付申候、此晩舟ニ泊  
り、丸龜より室津迄廿五り、四日朝舟より上り申候、此

所（こ）おく屋善次郎殿ニ而朝食たべ申候、卷人前百三拾

一室津よりしやうく（た）二り 此間川有、舟錢四文

一將正（た）よりいがるか二十五丁

一いがるかより山田巻り

一山田よりあお山半り

一青山より手野五丁

一手のヨリ姫路巻り 此処拾五万石之御城有、酒井雅楽頭

殿、飾東郡、江戸ヨリ百五拾七里、天し有、此所かわ細

工名物あり、四日晚此所泊り、東門口中井屋佐兵衛殿、

木錢七拾貳文、米巻升百三拾五、卷人前百六拾七文宛

一ひめ路よりこじやぐ巻り半

一ご着よりそね松巻り半 此所丑天神様有、そねの松かれ

で有、御神木松あり

一そねより石の室殿廿丁 此所石室でん様あり

一石室殿より高砂巻り 此所伊ざなみ伊ざなきの尊様あり、相生松有、是より五拾丁巻りなり、此間川有、舟錢

五文なり

一高砂より尾之上半り 此所住吉大明神様あり、相生之松

あり、都恋しふ肩枝の松あり、前二尾の上の金、長サ三

尺五寸、指渡貳尺五寸、此兼ハ琉合より上りたる名金也

一尾の上より別符半り 此間梅天神様有、脇ニ鶴すごもり

松あり、是より少し行而、住吉大明神様有、前二別符手

まぐらの松有

一別符よりしみづ二り 五日晚泊、明石屋多右衛門殿、旅

籠貳百三拾貳文、ひる出る、此間川有、舟錢四文

一清水より大久保巻り

一大久保より明石巻り半 此処十万石の御城あり、松平兵

部大輔殿、明石郡、江戸ヨリ百六十丁、此所柿本人麿様

有、毛木桜ハツふさの梅有舟形の梅有、是迄五十丁一り

一明石より樽み巻り半

一樽美よりす磨寺二り半 此間あつ盛の石党あり、前二そ

ば名物あり、是より六丁程行而、三の谷、二の谷、一の

谷有、次ニすま寺名所成、前二義経軍揃の松あり、脇ニ

義経腰掛松あり、神功こう合のつり竿の竹有、此竹ハ夏

の土用と冬の寒に竹の子二度出る成、あつ盛拾六才の御

姿有、次ニ義経若木の桜、此所宝物色々有

一す磨寺より兵庫巻り半 此処清盛公のつか有、同石党あり、六日晚此所泊、播磨屋利兵衛殿、木錢七拾貳文、米

巻升百三拾貳文、此所つき嶋あり

一兵庫より幾田（江）巻り 此所生田大明神様あり、參詣仕候、

前二まびら梅有、かぢ原の井戸、弁慶の坂さ竹あり、あつ盛のはぎあり

一 生田より海原<sup>江</sup>二リ 此所住吉大明神様有、前二さ、れ石有、美景の松あり

一字原より西の宮二リ 此所西の宮大神宮様有、御参詣仕候

一 西の宮より小屋<sup>江</sup> 耆り半 此間川有、橋銭三文

一 こやより瀬河式<sup>リ</sup> 七日晩此所泊、旅籠銭式百拾文、但ひる出る、角屋長右衛門殿

一 瀬川より郡山二リ

一 郡山より悪田川二リ

一 悪田河より山崎二リ

一 山崎よりよと耆り 此所十万式千石御城有、稲葉長門守、

記伊郡、江戸ヨリ百二十五リ

一 淀より伏見耆り半 町入口より稲荷様迄耆り半、此処伏

見稲荷様有、参詣仕候、奥の院式丁、御参詣仕候、前二

がらん門有、筋替町ハ京都分也、稲荷様より京都烏丸通

迄二耆り八丁なり、扇屋莊七殿<sup>江</sup>、正月八日夕くれ時罷

付申候、八日晩此所泊り、九日逗留仕候、此夜泊り、正

月十日朝案内取、見物仕候、あん内銭式百文、何人二

もおなじ、次ニ京東嶽見物仕候、次ニ六角党、十八番の

札所也、参詣仕候、脇二目のふ石の燈籠有、次ニ堺町よ

り御門二入、禁裏様御屋敷、鷹司関白様左大臣、九条関

白様右大臣、次ニ朝日の御門参詣仕候、次ニ白川大納言

様参り、御神酒御札、雷神よけ豆、かわらけ盃、三拾六

文<sup>二</sup>而ちよふ代仕候、三社宅五匁、京九重の守三匁<sup>二</sup>而

罷出申候、次ニ戌亥の御門<sup>江</sup>出る、鴨川有、次ニ吉田様

奥の院参詣仕候、次ニ真女党参詣仕候、前二三かへ堂有、

本尊ハあみだ如来様なり、次ニ方歳上人様紫雲石有、次

ニ御玉屋有、前ニ熊谷の塚あり、あづ盛の首塚有、次ニ

がらん門あり、此所より京中巻目二みゆる也、党ハ廿五間四面、南向也、名所也、次ニ西大谷御寺参詣仕候、八ツふさの梅有、前ニ大門有、下ニ目兼橋有、長サ拾間なり、次ニ大仏つり兼、日本二番のかね也、次ニ三拾三間堂参詣仕候、次ニ東門関やげ候二付、普請最中ニ御座候、是より烏丸通扇屋帰り、正月十日夜泊り、十一日逗留仕候、掛物兵庫ハ京六角通り近江屋留八殿ニ<sup>而</sup>仕候、表具末、正月十二日朝四夜泊、旅籠銭老貫文、扇屋相払申候、此日節分二付、昼九ツ時朝日御門より禁裏様御底入、十二文にて豆を受、御底砂ひろへ申候、参詣仕候、次ニ師子殿参詣仕候、前ニ右ごんの立花左ごんの桜有、西御門出申候、是より扇屋<sup>江</sup>帰り、直ニ罷立申候、三丈橋渡り一京都より大津三リ 京都より老り半程行而、三井寺<sup>江</sup>別れ道立石有、三井寺観世音様参詣仕候、西国拾四番の札所なり、此前ニ水海有、堂より左に当り、唐崎の壹松見ゆる、奥の院式丁、是より左り二下り、参詣仕候、上二つり兼有、是ハ弁慶の引たる兼也、是より仁王門<sup>江</sup>下り、弁慶のしるなべあり、指渡し六尺也、大津町<sup>江</sup>下り、正月十二日夜泊、旅籠式百文、鷹嶋屋吉兵衛殿、大津町より十三丁程行而、呼吹の松有、此所より三丁程行而、木

曾義仲公石党有、同塚有、兼平手向の松、かれである  
一大津より膳所巻り 此所六万石の御城あり、本多下総守殿、志賀郡

一勢々より勢田<sup>江</sup>半り 此所より石山寺<sup>江</sup>八丁、石山寺西国十三番の札所也、名所なり、此所廻るべし、せだ迄八丁帰り、勢田の唐橋渡り、小橋三拾六間、大橋九拾六間、此所小橋より百足山少し見ゆる

一勢多より草津二リ 此宿出はづれより仲山道わがれ

一草津より森山<sup>江</sup>巻り

一守山<sup>(守山より無佐四)</sup>より無佐四リ 此間川二ツ有、橋銭八文宛

一むさより越川二リ半 正月十三日晚泊り、藤屋<sup>江</sup>幸右衛門殿、はたご式百文、ひる出る

一江ち川より高宮二リ 此所町中ニ石の鳥居あり、壹丈壹

尺寸寸まわり也、是より多賀大明神様有、大社也、巻りまわり、御しいん五百石也、此所ニまわりてもよし

一高宮より鳥居本巻り半 此所少し行而、江州彦根三十五万石の御城あり、伊井掃部守殿、犬上郡、江戸ヨリ百八

リヨ、此間竹細工名物あり

一鳥居本よりばんバ巻り 此間すりはじ峠あり

一番場よりさめがへ巻り

一 さまめ替より柏原壱り

一 柏原より今須壱り

一 今須より関ヶ原壱り

一 関ヶ原よりたる井壱り 十四日夜此所泊り、はたご式百文、ひる出るなり、丹波屋幸介殿

一 樽井より大はが壱り 此所左馬の守石堂有、萬屋長右衛門屋敷跡に清水有、よし竹有

一 大はかより赤坂壱り 此所石細工名物あり、川有、舟錢六文

一 赤坂より美越二り八丁

一 美えぢよりがふど壱り半 此間川有、舟錢拾式文

一 合登より加納壱り半 此処三万二千石御城有、永井肥前守殿、厚見郡、江戸ヨリ九十七リヨ

一 加納より海沼四り半 十五日夜泊、問屋脇本陣野口定兵衛殿、はたご式百文、ひる出る

一 宇沼よりあふだ二り 此間川有、舟錢三拾式文、此間美濃焼せだ名物有

一 大田よりふしみ二り

一 伏見より御嶽壱り

一 美竹より細くて三り

一 細くでより大久手一り三十丁 十六日夜泊り、式百式拾四文、ひる出る、江戸屋孫右衛門殿

一 大久手よりあふい三り半 此間十三峠、くし名物有

一 あふ井より中津川二り半

一 中津河より落合一り

一 落合より馬込一り 此間とふけあり

一 まごめよりつまご二り半 正月十七日夜泊り、大野屋孫右衛門殿、はたご百八拾八文、ひる出る

一 つまごよりみとの一り半

一 美登野より野尻二り半

一 野尻より須原壱り半 此所より二り九丁行而、小野小町目覚めの瀧有、此所少し行而木曾の懸橋有、浦嶋太郎名物蕎麦あり

一 須原より上ヶ松三り半

一 上ヶ松より福嶋二り半 正月十八日夜泊り、つた屋要治殿、旅籠式百拾六文、ひる出る

一 一宮の越よりやこ原二り

一 一宮の越より宮の越二り

一 一宮の越よりやこ原二り

一に糸河より本山二リ 十九日晚泊り、はたご式百文、ひる出る、川本屋孫三郎殿

一本山より洗馬卅丁

一せばより合原巻り三十丁

一かふ原より村井巻り半

一むらいより松本巻り半 此所六万石の御城有、松平丹波

守殿、筑摩郡、江戸ヨリ六十リ

一松本よりおかだ巻り

一岡田より苧谷原一リ半 此間峠あり

一刈谷原よりあいた巻り半

一會田より青柳三リ 此間峠あり、正月廿日泊り、御本陣

問屋青柳八郎右衛門殿、はたご式百文、ひる出る

一青柳よりおみ巻り

一お美より稲荷山三リ、此間ばんハ峠あり、柏餅名物あり

一稲荷山より追分一リ

一追分より丹波嶋二リ

一たんば嶋より善光寺巻り 此間丹波川有、舟錢三拾九文、

舟役所へ納べし、其日戻れば、但し舟錢不申入候、善光

寺御本當ハ三拾九間ニ拾八間、本尊ハ三国巻の如来様成、

党ハ南向なり、御しゅいん千石なり、正月廿一日八ツ半

時參詣仕候、しの、へ追分迄三リ帰り、廿一日夜追分江泊り、樽屋甚右衛門殿、旅籠式百文、ひる出る、此所より六丁行而渡場有、舟錢式拾貳文

一追分より屋城江一リ

一やしろより戸倉巻り半 此間さなだ帯名物あり

一戸倉より坂木巻り半

一坂木より上田三リ 此所五万三千石御城有、松平伊賀守

殿、小県郡、江戸ヨリ四十六リ

一上田より田中式り半 正月廿二日夜泊り、山屋惣五郎殿、

はたご式百文、ひる出る

一田中より小諸式り半 此所一万五千石御城あり、牧野遠

江守、佐久郡

一小諸より追分三リ 此間あさま山見ゆる

一追分より沓懸一リ五丁

一くづ掛よりかるい沢巻り 此処町出はづれより薄峠、登り十八丁、下り式り半なり、峠上ニ熊野大権現様有

一かる井沢より坂本三リ 廿三日晚泊り、はたご式百文、

ひる出る、小竹屋三重郎殿、此宿より八丁程行而、天下

御番所有、切ていらす、此所より八丁程行而、いぬけ山

見ゆる、よぐきを付て見るべし、此処より少し行而妙義

山江別れ道立石あり

一坂本より松井田二り半

一松板より安中二り十五丁 此処三万石御城あり、板倉伊

予守殿、碓井郡、江戸ヨリ式拾九り

一安中より坂花壱り

一坂花より鷹崎式り 此処八万二千石御城あり、松平左京

亮殿、群高郡、江戸ヨリ廿六り半

一高さきより前橋三り 此間川有、舟銭式拾文、廿四日晚

泊、はたこ式百六拾四文、仲澤屋唯四郎殿、江戸絵不足

ならハ、此所ニ而買べし

一前橋より大胡二り半

一おふごより室澤二り

一むろ沢より深沢二り 此間少し峠あり、山道なり

一深澤より花狂三り

一花わより合登壱り半

一かふどよりそふ利二り 廿五日夜、此間草木ど申所二泊

り、木銭六拾四文、米壱升百七拾六文、山本屋、壱人前

式百拾六文宛

一惣利より芦尾二り半

一足尾よりみがうし二り

一美がふ志より細尾二り半 此間足尾峠あり

一細尾より日光壱り半 正月廿六日夜泊、旅籠式百六拾四

文、日光内町松野屋七郎左衛門殿、正月廿七日朝案内取、

御参詣仕候、次ニ山つげの蛇橋、不条よげ守十二文受申

候、次ニ御門を入、次ニ仁王門、御本社東照大権現様、

参詣仕候、前ニ唐兼鳥居あり、日光日暮御門、四方唐は

ふ也、次ニから木の御門、唐木作り、四方からはふ、皆

金作り、しゅぬりためぬりなり、石燈籠数々有、諸大名

様御奇進有、左之方なんばん鉄の燈籠ハ仙台様御きしん、

右之方から兼の燈ろふハ薩磨様御奇進、手水井戸ハ鍋嶋

様御きしん、石作り柱四方之内、一門ニ柱三本宛有、石

江金兼ごなり、右之方ニはず燈籠有、まはるとふろふあ

り、是ハ朝泉国より奇進、下ニ五かへ党有、次ニそう林

燈、からよりきしん、いんす金とふろふ二ツ有、次ニ日

光大権現八方八ツ棟作り、次ニ三代將軍家光公様御玉屋

有、此外名所数々あり、是ニ而案内銭百文也、増社百式

拾増社あり、参詣仕れハ百文なり、御門番江式拾四文出

し、山役銭四拾八文、松の屋江納、日光内町松野屋江帰り、

ひる食、百文ニ而たべ申候、此所しんけふぬり、からし

名物あり

一日光より今市二リ

一今市（足より山坂迄入）より大渡り二リ

一大渡りよりふ生一リ 此間川有、橋銭拾六文

一船生より玉生二リ 廿七日夜泊り、はたご貳百貳拾四文、

ひる出る、丸屋〔江〕弥右衛門殿

一玉にふより屋板二リ半

一矢いだより大田原三リ半 此間川有、橋銭五文

一大田原〔足より北山道〕より鍋懸三リ

一なべ掛より鯉堀六丁

一越ほりより足野三リ 廿八日晚泊り、御本陣新吉川屋薄〔江〕

一井幸三郎殿、はたご貳百五拾五文、ひる出る

一芦野より白坂三リ

一白坂より白川壱リ半

一白河より屋吹四リ

一矢吹より須か川二リ半 正月廿九日夜泊り、はたご貳百

六拾文、ひる出る、和泉屋鉄五郎殿〔江〕

一須か川より森山壱リ半

一守山より赤沼〔江〕壱リ半

一赤沼より三春三リ

一三春より北宇津志村〔江〕四リ半

安政七庚年正月晦日夜五ツ時、我屋〔江〕罷附申候、已上  
千鶴萬龜、目出度、已上

覚

澤口 善吉

帝釈内 祝三郎

神作 寅之介

屋敷 宗五郎

同 儀平

村東作 政五郎

伊勢松

道行七人

道中附薬

一 けふふん

一 こむいし

一 びやくたん

此三品の薬、とふぶん合、ごまの油二而一とき、附べし、

あんどんの油二而一もよし

一 ほれふ

酢二而一とき、附べし

一 虎之介年拾八才の時、伊勢参宮仕候、萬延二辛酉一年、書

うづし申候

参宮みやげ物覚

一 三春二而一買

一 百三拾文

江戸浅草前二而一買

一 貳貫貳百拾二文一

一 ゑ数

切ゑ

手帳

一 ゑ代

百五拾五枚

七拾四枚

一 四拾八文

道了権現様  
一 貳拾四文

小田原  
一 五拾文

同  
一 三拾六文

清見寺町二而一買

一 百八拾文

遠州秋葉山  
一 拾貳文

三州鳳来寺  
一 貳拾四文

尾州  
一 百文

伊勢稲木壺屋請込也  
一 四百四拾六文

同  
一 三百九拾貳文

同  
一 貳百八文

同  
一 百八拾四文

いせあさま  
一 百文

大山不動様一一枚

金印守貳枚

うへらう半包

飯ごり

合羽

御ゑ壺枚

繪図壺枚

津嶋天王様御守

煙草入壺ツ

同 壺ツ

萬金丹貳袋

一 仲御祓  
 代六百四拾文  
 貳百枚  
 一 御守  
 田九相六本家  
 拾、代六拾文  
 一 貳百文  
 たはこ入一ツ  
 いせ大夫様ニ而受申候  
 一 貳百文  
 三社宅  
 那知山本宮  
 一 拾貳文  
 御おふ二枚  
 本宮ニ而受  
 一 百貳拾四文  
 熊の様御ゑ巻枚  
 高野山にて  
 一 百文  
 紅葉九重守巻ツ  
 高野  
 一 拾貳文  
 光明真言安産守巻枚  
 一 三文  
 同  
 萬歳草  
 一 百文  
 同  
 すいしやう  
 じづ  
 奈良三笠山麓  
 一 百文  
 薬墨巻本  
 一 百文  
 同  
 墨三本  
 一 百文  
 同  
 すみ四本

同  
 一 百文  
 鹿巻筆五本  
 なら町ニ而買  
 一 貳百貳拾四文  
 墨貳拾本  
 堺ニ而買  
 一 貳百文  
 髪すり巻丁  
 大坂四ッ橋ニ而買  
 一 六百五拾文  
 きせる式本  
 一 貳百八拾六文  
 同  
 同 巻本  
 大坂ニ而買  
 一 金貳朱ト百文  
 柳ごふり一ツ  
 丸龜ニ而買  
 一 貳拾貳文  
 金ひら絵図巻枚  
 一 五拾文  
 ぎしやぐ巻ツ  
 播州姫路ニ而買  
 一 巻貫三拾文  
 掛とんふり二ツ  
 兵庫ニ而買  
 一 百四拾文  
 さどふ巻きん目  
 京都ニ而買  
 一 式百六拾文  
 日本絵図巻枚  
 京ニ而掛物兵庫賣  
 一 百貳拾四文  
 大山不動様御ゑ  
 同  
 一 百貳拾四文  
 紀州熊野様

一四拾八文	同	伊勢あさま御ゑ	一式拾五文	同	はり拾本
一式拾四文	同	伏見稻荷様	一金貳朱ト百五拾文	同	さらし風呂敷十枚
一百七拾文	同	伊勢四社宅兵ご	一三百文	同	盃三ツ
京都ニ而買 一百六拾文		懸物壺ふく	一式百七拾五文	同	盃五ツ
京都ニ而買 一百八拾文		掛物壺ふく	一壺朱ト百文	同	廣さへ風呂敷壺一枚
一四拾文	同	掛物壺ふく	一式百文	同	百人一首
一金二朱ト貳百文	同	掛物六ふく	一拾六文	同	な種壺包
京都ニ而買 一壺朱ト五拾文		扇五拾本入一箱	一式百八拾文	同	羽織ひば二組
一九拾文	同	せん子五本	京都ニ而買 一百貳拾六文		真田八尺
一六拾文	同	扇子貳本	一六拾八文	同	髪すりと一ツ
一七拾貳文	同	同 壺本	禁裏様御底ニ而受 一拾貳文		鬼打豆壺包
同 一百七拾九文		扇廿五本入壺箱	赤坂宿ニ而買 一式拾四文		おメ壺ツ
同 一百四十五拾六文		はり四百本	大田ト伏見の間ニ而買 一式百三拾文		盃三ツ組貳組

合とト加納の間ニ而	
一 三拾四文	ほし大根一包
十二軒ニ而買	
一 百文	三ツ櫛式組
同	
一 百文	くし拾枚
同	
一 百拾九文	くし六まへ
同	
一 百文	お六櫛八枚
同	
須原ニ而	
一 三拾五文	花附巻箱
やこ原ニ而	
一 百五拾文	三ツ櫛三組
同	
一 百文	櫛三まへ
同	
一 三拾文	くし三枚
同	
一 拾六文	くし壹枚
同	
やしろと倉間ニ而	
一 百拾六文	帯巻筋
日光ニ而買	
一 七百文	重箱四ツ、茶代巻ツ
同	
一 五拾文	附唐し巻箱

白川ニ而買	
一 百五拾文	はし百五拾膳
三春ニ而買	
一 式百六拾文	足袋巻足
同	
一 百文	菓子
同	
メ金貳分ト	
錢拾四貫九百拾貳文	
金切貳兩三分巻朱ト百拾貳文	